

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	発達と老化の理解 I		必修	1年前期	15コマ30時間
担当教員	平山純子	背景	看護師職歴8年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉養成講座第12巻 発達と老化の理解 中央法規出版				
<b>授業概要</b> 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぶ影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために基礎的知識を学習する。					
<b>狙いと到達目標</b> ・成長・発達の原則や影響する要因など基礎的知識を理解できる。 ・ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題および特徴的な疾病について理解できる。 ・老年期の特徴と発達課題について理解できる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 人の一生を「人間の成長と発達の基礎的理解」を習得し、成長・発達の観点から老化を理解して「老化に伴うこころとからだの変化と生活」につなげ、介護実践に生かせる授業にしたい。					
1	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識 ①				
2	人間の成長と発達の基礎的知識 ②				
3	人間の成長と発達の基礎的知識 ③				
4	第2章 人間の発達段階と発達課題 ①				
5	人間の発達段階と発達課題 ②				
6	人間の発達段階と発達課題 ③				
7	人間の発達段階と発達課題 ④				
8	人間の発達段階と発達課題 ⑤				
9	人間の発達段階と発達課題 ⑥				
10	人間の発達段階と発達課題 ⑦				
11	人間の発達段階と発達課題 ⑧				
12	第3章 老年期の特徴と発達課題 ①				
13	老年期の特徴と発達課題 ②				
14	老年期の特徴と発達課題 ③				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験と小テストの合計点が60点以上を合格とする				
自由記述 (メッセージ)	生活支援技術の根拠となる知識を習得し、人生のあらゆる段階、とくに老年期にある人を広い視野で理解し、尊厳の保持や自立支援をふまえた介護実践につなげてほしい。				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	発達と老化の理解Ⅱ		必修	1年後期	15コマ30時間
担当教員	平山純子	背景	看護師職歴8年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉養成講座12 発達と老化の理解 中央法規出版				
<b>授業概要</b> 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぶ影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために基礎的知識を学習する。					
<b>狙いと到達目標</b> ・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と、それらがどのように生活に影響を与えるかについて理解できる。 ・高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的知識を理解できる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 人の一生を「人間の成長と発達の基礎的理解」を習得し、成長・発達の観点から老化を理解して「老化に伴うこころとからだの変化と生活」につなげ、介護実践に生かせる授業にしたい。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	第4章 老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ①				
2	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ②				
3	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ③				
4	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ④				
5	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ⑤				
6	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ⑥				
7	第5章 高齢者と健康				
8	高齢者と健康 ①				
9	高齢者と健康 ②				
10	高齢者と健康 ③				
11	高齢者と健康 ④				
12	高齢者と健康 ⑤				
13	高齢者と健康 ⑥				
14	高齢者の健康 ⑦				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験と小テストの合計点が60点以上を合格とする				
自由記述 (メッセージ)	生活支援技術の根拠となる知識を習得し、人生のあらゆる段階、とくに老年期にある人を広い視野で理解し、尊厳の保持や自立支援をふまえた介護実践につはげてほしい。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名・属性	認知症の理解 I		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	伊東寛	背景	介護福祉士職歴14年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座第13巻 認知症の理解 中央法規				
<b>授業概要</b> 認知症の基礎的理解について学習する。認知症の症状、診断・治療について学ぶ。 特に認知症の中核症状・周辺症状について理解を深め、尊厳に配慮したケアとは何かについて考える。					
<b>狙いと到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「認知症とは何か」ということを簡潔に、家族や関係者や地域で説明ができる。</li> <li>・4大認知症やケアの基本について説明できる。</li> <li>・「こころとからだ」の領域にある意味について理解できる。</li> <li>・ケアは、いろいろな職種の人たちとの連携によって行われることが説明できる。</li> </ul>					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の基本的な学びを、実習や地域ボランティア、ひいては就職に活かしていく。</li> <li>・目の前の認知症の方の症状にのみ着目するのではなく、全人格的に理解できるスキルや習慣を「認知症の理解」の学習を通して身につけ、実務に生かしていく。</li> </ul>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	認知症とは何か				
2	脳のしくみ				
3	認知症の人の心理				
4	中核症状の理解①				
5	中核症状の理解②				
6	生活障害の理解				
7	BPSDの理解①				
8	BPSDの理解②				
9	認知症の診断と重症度				
10	認知症の原因疾患と症状・生活障害①				
11	認知症の原因疾患と症状・生活障害②				
12	認知症の原因疾患と症状・生活障害③				
13	認知症の原因疾患と症状・生活障害④				
14	認知症の治療薬、認知症の予防 1年生のまとめ				
15	筆記試験				
評価方法	科目認定試験が60点以上で合格 (レポート、課題小テスト、授業参加度なども考慮)				
自由記述 (メッセージ)	教科書の「演習課題」もていねいに振り返ります。ペア学習など多く取り入れ、学生参加型の授業です。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	認知症の理解Ⅱ		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	伊東寛	背景	介護福祉士職歴14年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座第13巻 認知症の理解 中央法規				
授業概要	1年次の学びの上に、認知症の人と生活の場での介護、連携と協働、本人や家族の支援、認知症の人の生活支援の事例検討を行う。				
狙いと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症当事者が語り行動する意味について考える。</li> <li>・認知症の人の様々な生活の場や介護、連携と協働について学ぶ。</li> <li>・グループで事例の検討や、介護過程的な発表ができる。</li> <li>・最終学年生として、認知症の原因疾患や評価、症状や認知症ケアなどのついて説明や応用ができる。</li> </ul>				
授業において実務経験をどのように生かすか	認知症に関する専門知識を、時事問題や新オレンジプランなども含め総合的に整理・学習します。「認知症の当事者」や「家族」、「地域」という視点も加え、実習や就職、卒業研究につながる学びをします。				
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 認知症を取り巻く状況 これまでー今ーこれから</li> <li>2 認知症ケアの理念と視点</li> <li>3 認知症当事者の視点から見えるもの(長谷川和夫先生)</li> <li>4 パーソン・センタード・ケア</li> <li>5 認知症の人の理解と特性をふまえたアセスメント・ツール</li> <li>6 認知症の人とのコミュニケーション</li> <li>7 認知症の人へのケア</li> <li>8 認知症の人へのさまざまなアプローチ</li> <li>9 認知症の人の終末期医療と介護</li> <li>10 環境づくり</li> <li>11 家族への支援(ヤングケアラー含む)</li> <li>12 介護福祉職への支援、事例検討</li> <li>13 制度、サービス、機関、地域づくり</li> <li>14 多職種連携と協働、「認知症全般」のまとめ</li> <li>15 筆記試験</li> </ol>				
評価方法	科目認定試験が60点以上で合格 (レポート、課題小テスト、授業参加度なども加味)				
自由記述 (メッセージ)	実習Ⅱの受け持ち利用者さん、卒業研究発表は、ほぼ大半が認知症が想定される方です。しっかりと土台づくりを。				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	障害の理解 I		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	熊本恵美子	背景	臨床職歴31年 教育歴5年		
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	①中央法規出版 最新介護福祉養成講座 14 障害の理解 ②中央法規出版 最新介護福祉養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 参考書・・・中央法規 介護福祉士 国試ナビ2021				
<b>授業概要</b> 障害の概念を理解し、各障害に応じた生活介護支援の基礎的知識を習得する。					
<b>狙いと到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人のところや身体機能に関する基礎的知識がわかり、記述できる。</li> <li>・障害のある人の生活体験を感じることができる。</li> <li>・本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点と生活支援技術を説明できる。</li> <li>・グループワークで自分の体験や考えを述べるとともに、他者の体験や考えを共有できる。</li> <li>・グループワークで、他者の個別性や多様性を感じ、自他の相違を認めることができる。</li> </ul>					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 臨床経験での症例や自身の体験および社会的関心の高い事象を織り込みながら、授業を展開していく。受講生が既習知識や実習での体験を想起し、具体的に考えイメージしながら、主体的に授業に臨めるようにしていきたい。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	障害の基礎的理解：①基礎知識				
2	②生活支援の基本				
3	運動機能障害のある人の理解：①基礎知識				
4	②生活支援				
5	心臓機能障害のある人の理解：①基礎知識				
6	②生活支援				
7	呼吸機能障害のある人の理解：①基礎知識				
8	②生活支援				
9	腎臓機能障害のある人の理解	基礎知識と生活支援			
10	膀胱機能障害のある人の理解	基礎知識と生活支援			
11	直腸機能障害のある人の理解	基礎知識と生活支援			
12	小腸機能障害のある人の理解	基礎知識と生活支援			
13	肝臓機能障害のある人の理解	基礎知識 生活支援			
14	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人の理解 基礎知識と生活支援				
15	科目認定筆記試験				
評価方法	科目認定試験において60点以上で合格 授業・グループワーク参加度、課題提出状況を加味し、総合的に評価する。				
自由記述 (メッセージ)	本授業で理解した各障害に応じた生活介護支援の基礎的知識を、実習での個別的な介護支援に活用できることを期待する。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	障害の理解Ⅱ		必修	2年後期	15コマ・30時間
担当教員	熊本恵美子	背景	臨床職歴31年 教育歴5年		
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	①中央法規出版 最新介護福祉養成講座 14 障害の理解 ②中央法規出版 最新介護福祉養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 参考書・・・中央法規 介護福祉士 国試ナビ2021				
<b>授業概要</b> 障害の概念を理解し、各障害に応じた生活介護支援の基礎的知識を習得する。					
<b>狙いと到達目標</b> ・障害のある人のこころや身体機能に関する基礎的知識がわかったと述べることができる。 ・障害のある人の生活体験を感じることができる。 ・本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点と生活支援技術を説明できる。 ・グループワークで自分の体験や考えを述べるとともに、他者の体験や考えを共有できる。 ・グループワークで、他者の個別性や多様性を感じ、自他の相違を認めることができる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 臨床経験での症例や自身の体験および社会的関心の高い事象を織り込みながら、授業を展開していく。受講生が既習知識や実習での体験を想起し、具体的に考えイメージしながら、主体的に授業に臨めるようにしていきたい。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	視覚障害のある人の理解： ①基礎知識				
2	②生活支援技術				
3	聴覚障害のある人の理解： ①基礎知識				
4	②生活支援技術				
5	言語に障害のある人の理解： ①基礎知識				
6	②生活支援技術				
7	発達障害のある人の理解： ①基礎知識				
8	②生活支援技術				
9	精神障害のある人の理解： ①基礎知識				
10	②生活支援技術				
11	高次脳機能障害のある人の理解：①基礎知識				
12	②生活支援技術				
13	難病のある人の理解： ①基礎知識				
14	②生活支援技術				
15	科目認定筆記試験				
評価方法	科目認定試験において60点以上で合格 授業・グループワーク参加度を加味し、総合的に評価する。				
自由記述 (メッセージ)	本授業で理解した各障害に応じた生活介護支援の基礎的知識を、実践での個別的な介護支援に活用できることを期待する。				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみⅠ	必修	1年前期	15コマ30時間	
担当教員	善平弘子	背景	看護師職歴9年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ 照林社 看護に必要な漢字で覚える解剖ドリル				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・からだのしくみと働きを理解する。</li> <li>・こころのしくみと働きを理解する。</li> <li>・移動に関連したこころとからだのしくみを理解する。</li> </ul>					
狙いと到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体各部の名称を理解し、介護の場面で使うことができる。</li> <li>・こころのしくみと働きを理解し、介護場面での相互理解ができる。</li> <li>・移動に関するからだのしくみと働きが理解できる。</li> <li>・移動に関する技術を安全に提供するための根拠につなげることができる。</li> </ul>					
授業において実務経験をどのように生かすか					
人体の構造・機能の知識を生活支援技術を提供するうえでの根拠の理解に生かす。					
授業計画・内容					
1	からだのしくみの理解① 身体各部の名称				
2	からだのしくみの理解② 呼吸器系				
3	からだのしくみの理解③ 循環器系				
4	からだのしくみの理解④ 骨、関節				
5	からだのしくみの理解⑤ 骨格筋				
6	移動に関連したこころとからだのしくみ 移動のしくみ				
7	移動に関連したからだのしくみ①座位姿勢と立位姿勢 教室演習				
8	移動に関連したからだのしくみ②仰臥位 側臥位 座位 歩行のしくみ 教室演習				
9	ボディメカニクス				
10	心身機能の低下が移動に及ぼす影響① 廃用症候群 褥瘡				
11	心身機能の低下が移動に及ぼす影響② 麻痺 変化の気づきと対応				
12	からだのしくみの理解⑥ 脳・神経				
13	こころのしくみの理解① 人間の欲求				
14	こころのしくみの理解② 適応・適応機制				
15	科目認定試験				
評価方法	小テストと科目認定試験を合わせて評価する				
自由記述 (メッセージ)	「生活支援技術」「発達と老化」「障害の理解」「認知症の理解」などの教科を理解するための基礎となります。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみⅡ		必修	1年後期	15コマ30時間
担当教員	善平弘子	背景			
授業形態	講義	実務家教員 看護師職歴9年			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ 照林社 看護に必要な漢字で覚える解剖ドリル				
<b>授業概要</b> ・食事に関連したこころとからだのしくみを理解する。 ・身じたくに関連したこころとからだのしくみを理解する。					
<b>狙いと到達目標</b> ・食事に関するからだのしくみとはたらきが理解できる。 ・食事に関する技術を安全に行うための根拠が理解できる。 ・身じたくに関するからだのしくみとはたらきが理解できる。 ・身じたくに関する技術を安全に行うための根拠が理解できる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 人体の構造・機能の知識を生活支援技術を提供するうえでの根拠の理解に生かす。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	食事とは 食事に関連したこころのしくみ				
2	食事に関連したからだのしくみ				
3	食べるしくみ ビスケット演習				
4	食事の姿勢 食事の形態と治療食				
5	心身機能の低下が食事に及ぼす影響				
6	変化の気づきと対応 誤嚥 窒息 嚥下障害 脱水				
7	口腔ケア				
8	身じたくのしくみ①顔				
9	身じたくのしくみ②眼				
10	身じたくのしくみ③爪				
11	身じたくのしくみ④毛髪				
12	身じたくのしくみ⑤耳・鼻				
13	衣生活① 教室演習				
14	衣生活② 心身機能の低下が身じたくに及ぼす影響				
15	科目認定試験				
評価方法	小テストと科目認定試験を合わせて評価する。				
自由記述 (メッセージ)	「生活支援技術」「発達と老化」「障害の理解」「認知症の理解」などの教科を理解するための基礎になります。				



課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみⅢ		必修	1年後期	15コマ30時間
担当教員	善平弘子	背景			
授業形態	講義	実務家教員 看護師9年			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 生活支援技術 II 照林社 看護に必要な漢字で覚える解剖ドリル				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄に関連したこころとからだのしくみを理解する。</li> <li>・清潔に関連したこころとからだのしくみを理解する。</li> </ul>					
狙いと到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄に関するからだのしくみとはたらきが理解できる。</li> <li>・排泄に関する技術を安全に行うための根拠が理解できる。</li> <li>・清潔に関するからだのしくみとはたらきが理解できる。</li> <li>・清潔に関する技術を安全に行うための根拠が理解できる。</li> </ul>					
授業において実務経験をどのように生かすか					
人体の構造・機能の知識を生活支援技術を提供するうえでの根拠の理解に生かす。					
授業計画・内容					
1	排泄に関連したこころのしくみ				
2	排泄のしくみ① 排尿				
3	排泄のしくみ② 排便				
4	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響①精神・判断力の低下 ADLの低下				
5	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響②排尿障害				
6	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響③排便障害				
7	変化の気づきと対応 陰部洗浄				
8	入浴・清潔保持のしくみ①皮膚の構造とはたらき				
9	入浴・清潔保持のしくみ②発汗のしくみ 皮膚の汚れのしくみ				
10	心身の状態に応じた清潔① 入浴とは				
11	心身の状態に応じた清潔② 入浴・清拭とは				
12	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響① 皮膚機能の低下 視覚機能の低下 聴覚機能の低下				
13	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響② 運動機能の低下 心疾患・呼吸器疾患 医療的ケアを受けている人 認知機能の低下				
14	変化の気づきと対応 入浴での事故と対応				
15	科目認定試験				
評価方法	小テストと科目認定試験を合わせて評価する。				
自由記述 (メッセージ)	「生活支援技術」「発達と老化」「障害の理解」「認知症の理解」などの教科を理解するための基礎になります。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみⅣ		必修	2年前期	15コマ30時間
担当教員	平山純子	背景	看護師職歴8年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座第11巻 こころとからだのしくみ 中央法規				
<b>授業概要</b> ・「休息・睡眠」に関連したこころとからだのしくみを理解する。 ・「人生の最終段階のケア」に関連したこころとからだのしくみを理解する。					
<b>狙いと到達目標</b> ・人間の基本的な「睡眠」に関連したこころとからだのしくみを理解し、生活支援技術の根拠を考え、応用できるような学びとする。 ・人間の基本的な「死にゆく人」のこころとからだのしくみを理解し、生活支援技術の根拠を考え、応用できるような学びとする。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 「こころとからだのしくみ」と「生活支援技術」のそれぞれをつなげることができ、介護に生かせることができるような授業にしたい。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	休息・睡眠に関連したこころとからだの基礎知識				
2	休息・睡眠のしくみ ①				
3	休息・睡眠のしくみ ②				
4	心身の機能低下が及ぼす睡眠への影響 ①				
5	心身の機能低下が及ぼす睡眠への影響 ②				
6	変化に気づくためのポイント				
7	「人生の最終段階における死」のとらえ方 ①				
8	「人生の最終段階における死」のとらえ方 ②				
9	「死」に対するこころの理解 ①				
10	「死」に対するこころの理解 ②				
11	「死」に対するこころの理解 ③				
12	終末期から「死」までの身体機能の特徴				
13	臨終期から死後のからだの変化とその対応				
14	死生観				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験において60点以上で合格				
自由記述 (メッセージ)	「睡眠」に関連したこころとからだのしくみ、死にゆく人のこころとからだのしくみの2つの章を学ぶ授業である。介護をする上で必要な根拠となるこころとからだのしくみを理解してほしい。				